

夢中熱中青春ライフ!



(21)

成章レーシングスキー

スポーツ少年団・育成会

スキーシーズン真つ盛り。休日ともなれば、ゲレンデは、鮮やかなシニールを描くスキーヤーでいっぱい。今回は、文部省の社会体育優良団体に輝いた成章レーシングスキースポーツ少年団・育成会を紹介します。活動内容や目標などを代表の菅原三千男さんと指導者の中山吉行さんに伺いました。

団体生活のルール、

礼儀を学ばせたい

スポーツ少年団として活動を開始したのは昭和六十年四月から



さまざまな行事にも積極的に参加しています
(今年の元旦マラソン)

です。もともとは道目木スキー場(大滝温泉スキー場)で子供たちに地区の人が指導していたのが始まりですから、実質的には二十五年ぐらいになりますね。現在、団員は小中学生合わせて四十二人。それと育成会員の父母などが七十七人です。発足当初は、十二所地区の子供たちが対象でしたが、スキー人口を増やそうということで、現在は市内全域を対象にしています。比内町からも参加しています。

会の目的は、アルペンスキーを通して子供たちの健全育成を図っていくこと。大会での勝ち負けよりも、団体生活のルールや礼儀を

学んでほしいということです。

少年団活動のメインは、競技会やバジテストへの参加です。競技は百分の一秒を争う過酷なものです。一方、バジテストには技術の正確性が要求されます。当然、練習内容は違いますから、競技会参加者とバジテスト参加者への指導は分けて行きます。また、大滝温泉スキー場を会場に成章アルペンスキー大会を主催しています。県北の児童が対象で、九回目を迎えることになりました。今年は、二月二十八日に開く予定です。

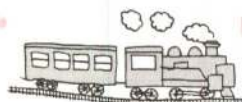
シーズン前にはスキー場の刈り払いを、シーズン終了後はごみ拾いをします。みんなで作業することで、協力し合うことの大切さや物に対する感謝の気持ちが育つと思います。

雪国の子だったら

スキー滑れなきや

育成会としてうれしいのは、OB・OGが練習に顔を出してくれることです。この少年団から巣立っていった子供たちが、今度は後輩を指導する、こうしたつながりが地域の連帯感を深めていくことになると思います。育成会は、「雪国の子供ならスキーぐらいできるようにしてやらなきや」という「親心」の集まりかもしれませんね。

金ヶ崎発 → 大館着



前略

大館市民になりました (22)

☆今回は北神明町の中川祐介さんご一家です。

Q・ご家族は何人ですか。

妻と二人です。

Q・どちらから転入されましたか?

岩手県金ヶ崎町からです。私は仙台市出身で、去年十月十七日に転勤して来ました。妻は水沢市の出身です。

Q・大館の第一印象はいかがでしたか?

想像していたより大きな街でした。東北自動車道は近いし、盛岡—大館間の直通バスもありましたから、交通の便も案外いいな、というのが感想です。来る前は、「最果ての地」にでも行くかのようなイメージがあったので、よいけそう感じたのかもしれませんが。(笑)

Q・言葉や食べ物などでとまどいはありませんか?

食べ物についてはほとんどありません。そうそう、先日食べたきりたんぼはうまかった。やはり本場は違うな、という感じでした。言葉については「勉強中」です。スーパーに勤めています。お客さんの応対には四苦八苦。パートの人に「通訳」してもらっています。商品の配達先を覚えるのが大変です。

Q・大館に望むことは?

お客さんに若い人が少ないのが寂しいです。若い人が働ける場をつくる必要があります。あと、コンサートホールなど人が気軽に集まれる場があればいいなとも感じます。秋田県第二の都市にふさわしい活気あふれる街になるように望んでいます。



祐介さんと奥さんのあけみさん